



笑顔の絶えない対話活動を

立川国際友好協会

会長 斎藤 實

立川市と日本の未来を切り開く一つの切り口として、立川市議会に陳情した「多文化共生都市宣言」が、2年掛かりで成立して満1周年が過ぎ去りました。立川市内には、外国人居住者が約4,000人をかぞえ、今後ますます増大することが予想されます。東京都には約52万人(2017年12月現在)の外国人が居住している現状です。



立川国際友好協会(TIFA)は、平成4年から「外国人のための日本語教室」を無料で運営している任意のボランティア団体で、現在やく80名の登録ボランティアにより3教室運営し、昨年度は31カ国から延べ2,500人の受講者が通学しました。

地域に生活する外国人が安心して、安全に日本で暮らすためには「日本語を学んでコミュニケーション能力を高める」ことが大切ですが、それだけでは不十分で、より大切なことは地域で暮らす住民同士として、日本人と外国人、外国人と外国人同士が、人間的に良い関係を保持し合うコミュニティを育てることが重要なのです。私たちボランティアは、単に「教える人」と「学ぶ人」という関係に留まることなく、地域に暮らす人として共に生活を楽しく暮らしあえる間柄になることが必要なのです。

日本語教室は、日本語を使って「我」と「汝」といった人間関係を確立し、人間的相互理解を深めあう場であることを再認識すべきです。日本語教室で出会い、知り合い、ともに活動しながら感動を作り出す場にすることを心がけたいものです。

教えることが主流と思い込む日本語教室から、ともに考え、共に何かを作り出すという対等な人間関係を心がけ、対話を深め合う日本語教室活動の展開を、本年度の目標にしたいと考えております。その意味で「サロン縁側」の存在は大きな意義があります。言葉の習得は、「習うより慣れろ」です。生活や人生にとって意味のあることを伝え合うことで言葉は身につくのです。

日本語教室はその基盤づくりの場になることを自覚しましょう。そして、全ての人間が無事に生きていける社会の建設を目指して参りたいものです。

今年も「仲良く、楽しく、元気よく」ボランティア活動を実践してまいりましょう。皆様のご健闘を期待します。

木曜教室ランチパーティー

12月21日、木曜教室は授業終了後、ランチパーティーを行ないました。3階の作業室に一同が会し、テーブルに受講生、ボランティアが持ち寄った手料理、フルーツ、お菓子やスタッフが用意してくれた軽食や飲み物などが並べられ彩り豊かでした。最近、ランチパーティーに小さなメガフォンが使用されるようになりました。パーティーの挨拶や手料理の説明などに大活躍しています。説明が終わると、和気藹藹と食事をとりながら歓談を楽しみました。



説明が終わると、和気藹藹と食事をとりながら歓談を楽しみました。

☆☆TIFA 新役員選挙☆☆

11月第3週から12月第2週の間、2018年度、2019年度のTIFA役員選挙を行い下記の12名が選出されました。会長、副会長、各部々長、会計監査等の担当は1月27日の運営委員会で決定する予定です。

(敬称略)

木曜教室：5名

赤嶺令子、斎藤實、佐藤達夫、松本久、近藤誠

土曜教室：6名

の場正道、奥田正博、橋本溪一、荒井由基子、小林保、牛島芳

西砂教室：1名

佐藤公男

☆ イヤーエンドパーティー☆

12月16日(土)、恒例のイヤーエンドパーティーを柴崎学習会地下1階の講堂で開催し、約140名の受講生とその家族、友人、ボランティアが参加しました。従来の演目を鑑賞するスタイルから、全員が参加するような試みで企画されました。

17:30に開宴し20:30に終了しましたが、早く帰る人のため、抽選会の景品を19:30から受取れるようにしました。講堂の中央でダンスやゲームができるようスペースを確保するため、食事用のテーブルを配置せず、食事は別室でとるようにしました。朝早くから料理、会場の設営、



会長の挨拶で開宴。

景品の準備をされた方々、有難うございました。お陰様で楽しく過ごすことができました。

皆さんの協力により、会場の設営作業は予想外に早く完了しました。



飾りつけの風船作りは、大変でした。



参加者全員に景品を渡します。

朝から袋詰め作業をしました。

皆さんに喜んでもらえるのが嬉しいです。

朝から料理作りでした。

チャーハンを作るよ。



私、これがいいわ。



会長自ら料理を運び、テーブルに配置しましたよ。

私は綿菓子を作りました。上手に作れます。



おいしいよ。



私はポップコーンを作りました。

おい、俺が教えてやるよ。



なかなか上手いかないね。

ゲームに熱中している子供達。



さあ～、食べ
ましょう。



俺が作ったチャー
ハンはおいしい？

夫と子供の3人で
来ました。中国人受
講生です。

はい、おいしいです。



ベトナム人受講生
です。
最近、仲間が増えて
います。



3世代で来ました。



今年は、私たち夫婦で
司会をします。

毎年。ハワイアンを踊
っています。



軽快なサルサ
ダンス



上手ですね。



ステージを降り、みんなでサルサダンス
リズムに乗り、軽やかなステップですね。



ボールを落とすな、
速く走れ、頑張れ、



最後はみんなで東京音頭を踊りました。

お疲れ様でした。楽しかったです。
スタッフのみなさん有難うございました。

東京で暮らす外国籍の人々

—外国籍の人々の推移と割合—

東京の在住外国人は2016年1月現在約45万人で、東日本大震災以降一時的に減少したものの、2014年から再び増加に転じています。都の総人口は20年前と比較して約15%の伸びですが、外国人人口は約70%増加しており、国際化の時代を反映しています。

東京には全国の外資系企業の76.5%が集まっており、大学をはじめとする教育機関も多いため、技術・人文知識・国際業務など、いわゆる高度人材と留学生の比率が高いのが特徴です。全国の外国人のうち約2割が東京で暮らしており、都の総人口に占める外国籍の人々の割合も3.3%と全国第一位です。

在住外国人数を市区町村別にみると、新宿区がとびぬけて多く(38,585人)、次いで江戸川区(28,113人)、足立区(25,541人)の順になっています。人口全体に占める割合では、第1位の新宿区では10%以上を占め、大使館や外資系企業が集積する港区が約8%で続いています。区部と市部で比較すると、外国人人口及び全住民に占める割合はいずれも、区部が多くなっています。市部では、大学が集積する八王子市には1万人を超える外国籍の人々が生活しています。

—国籍—

東京における在住外国人の国籍をみると、30年前の1985年には韓国・朝鮮籍が57.2%と過半数を占め、次に中国籍(16.1%)、米国籍(9.5%)の順でした。しかし、現在は中国籍が最も多く(41.4%)、韓国・朝鮮籍(20.8%)、フィリピン籍(6.6%)と続き、さらに近年はベトナム、ネパールをはじめとするアジア

出身者が増加し、多国籍化がますます進んでいます。現在、東京には178の国籍の外国人の方々が住んでおり、多様な文化や価値観をもった人々が集まっていると言えます。

また、異国で暮らすためには情報の共有や相互の助け合いが必要のため、同じ国籍の人たちが集住しコミュニティをつくる傾向もあります。江戸川区南部の西葛西は「東京の隠れインドタウン」と呼ばれていますが、江戸川区には東京全体のインド人の約3割が住んでいます。また、高田馬場は「リトルヤンゴン」と呼ばれ、駅周辺にはミャンマーレストラン・雑貨店が集まっています。さらに、ベトナム・ネパール国籍の人々は、新宿区や隣接する豊島区に集中しています。

—立川の外国人—

立川市には、2016年1月現在、3,563人の外国籍の方々が住んでおり、全人口の2.0%を占めています。国籍別では、中国籍が46.5%と26市平均の37.9%を大きく上回り、韓国・朝鮮籍(22.3%)、フィリピン籍(8.9%)と続きます。町別の居住実態は図表のとおりです。

今後外国籍の方々の定住化がより一層進むことが予想され、地域社会の構成員として日本人と外国人の相互理解と共生がますます重要となってきます。日本語教室がささやかではあれ、その一歩となるよう、学習者・ボランティア双方で努力したいものです。

☆TIFA会員動向☆

(敬称略)

【入会者】【退会者】【休会者】

木曜、土曜、西砂：なし

【復帰者】土曜：中込 巴

☆☆今後の予定☆☆

3学期開始

土曜教室、西砂教室：

1月6日(土)

木曜教室：1月18日(木)

土曜教室節分：2月3日(土)

木曜教室 ボランティア研修会：

2月8日(木)

土曜教室 ひな祭：

3月3日(土)

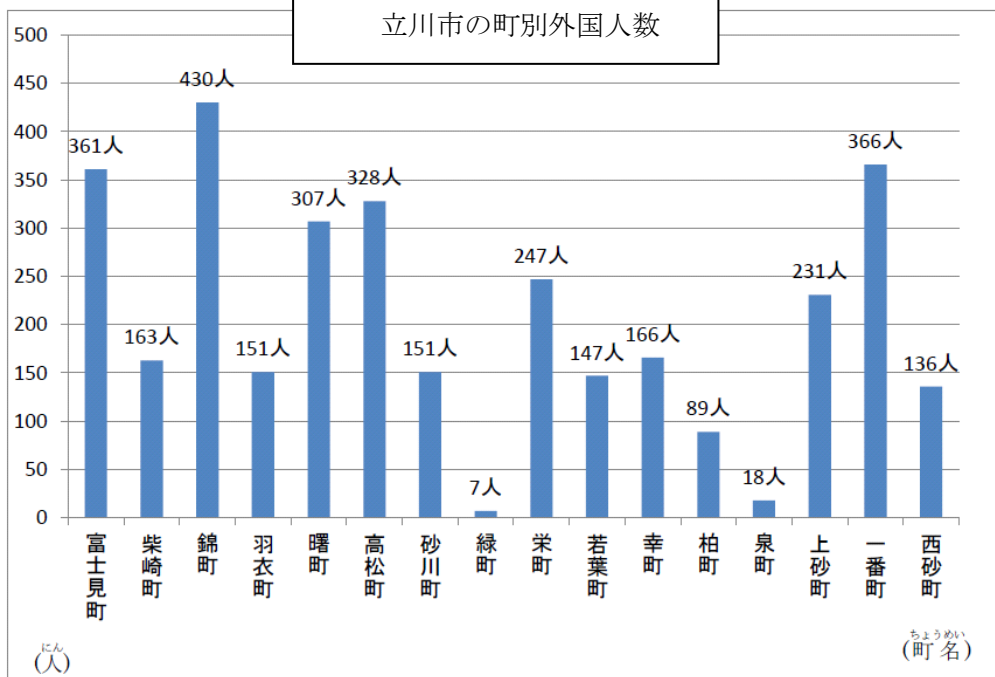
木曜教室 ランチパーティー：

3月22日(木)

土曜教室 スピーチ大会：

3月25日(土)

立川市の町別外国人数



*) 平成27年1月1日現在。